

みんなの総活躍で明るい未来を！



伊藤一郎氏

日本在外企業協会 会長
旭化成株式会社 会長

白石真澄氏

関西大学 政策創造学部 教授

国内外のビジネス環境が大きく変化する中で迎えた2017年、若者もシニア世代も、女性も男性も、皆が総活躍する明るい未来をつくりたい。こうした願いを込めて、白石真澄先生と伊藤一郎会長に、人材育成、ダイバーシティ、国際情勢の変化と日本の進路について語っていただいた。

意識はグローバル、行動は現実的

伊藤：何をおいても人材ということが大事ですから、初めに最近の学生気質がどういった状況なのかについてお話しただけませんか。僕は安保の時は高校生で「安保世代」ではないのですが、かなり多くのことに興味もあったし、何かやろうという情熱もあった。ところが最近の学生さんを見ていると、そうした面が何となく薄れてきているのではないかと感じています。

白石さんは最近の学生さんについてどのような感想をお持ちなのか、率直なところをお聞かせ願えればありがたいのですが。

白石：私が大学の教員になって15年経ちます

が、やはり学生さんの変質というか、変わりぶりというのはもう「本当にそうなの!!」って思うくらいの状況があります。意識はとてもグローバルなのですが、行動は極めて現実を受け止めたローカル志向です。多くの人が「留学をしたい」と興味はあるのですが、「ではなぜ留学するの?」、語学に対する関心、話せたらいいな、ということかと思って聞いたら、「就職に有利だから」と言うのです(笑)。

留学は1つのプロセスであって、そこがゴールではないと思うのですが……。[海外で働く]ことと留学が直結していない気がします。地元志向がすごく強くて、転勤のある都市銀行よりも地方銀行がいいとか、親元に帰りたいとか。

伊藤さんの学生時代や私の学生時代は、「頑張れ